

# 小中連携・小小連携・地域交流の推進

～児童生徒の将来の社会的自立をめざして～

【周南市 岐陽中学校区】

## 地域の概要

岐陽中学校区は、周南市の中央部に位置し、多くの文化施設があり、産業の盛んな地域です。

徳山、岐山、遠石の3つの小学校区からなり、それぞれの小学校区には公民館があり、地域と学校が手を携えて、学校づくり・地域づくりを推進する環境が整備されています。

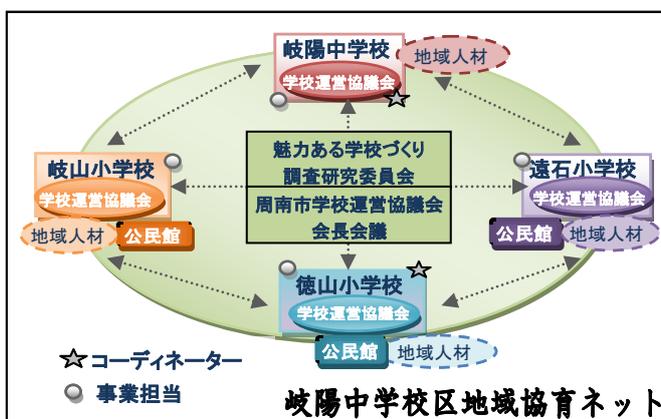
人口	22,600人	
世帯数	10,974世帯	
対象校及び児童生徒数	岐陽中学校	653人
	徳山小学校	677人
	岐山小学校	471人
	遠石小学校	422人

※徳山小学校は約9割、遠石小学校は約5割が岐陽中学校に入学

## 組織の内容

岐陽中学校では、平成24～25年度、国立教育政策研究所から「魅力ある学校づくり調査研究事業」の委託を受け、児童生徒の豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成し、不登校の未然防止に取り組んできました。校区内にある小・中4校を中心とした協議会「魅力ある学校づくり調査研究委員会」で協議を重ね、授業の中での学び合いや自己決定の場、他者とのかかわりあいのある体験活動、小中連携・小小連携・地域交流等の充実を進めてきました。

周南市では、平成24年度に全小・中学校にコミュニティ・スクール制度が導入されており、各校の校長と学校運営協議会会長で構成される「周南市学校運営協議会会長会議」の中学校区部会において、岐陽中学校区の情報交換や地域での具体的な取組が協議されています。また、岐陽中学校と徳山小学校にはコーディネーターが配置されており、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っています。これらは、各学校、地域が課題の共有を進め、各学校運営協議会で支援の在り方を検討していく地域ぐるみで子どもを育むための取組であり、岐陽中学校区における地域協育ネットの推進となっています。



## 特色・重点的な取組

岐陽中学校区の小・中学校では、「生徒指導の3機能（自己存在感の高揚、自己決定力の育成、共感的人間関係の構築）を生かした授業づくり」「かかわり合いのある体験活動」「小中連携・小小連携・地域交流」を推進しています。学校間連携は、次のように「Step1:情報交換」→「Step2:交流」→「Step3:協働実践」の3段階で進めています。

**Step1 情報交換** 連携推進会議（校長）、部会チーフ会議（教頭）、事業担当者会議、部会代表者会議、小中連携だより発行、学校運営協議会、調査研究委員会

**Step2 交流** 授業参観、出前授業、研究協議会参加、小学校教諭の「中学生夏休み学習会」への参加、小・中合同部会の活動、小・中合同研修会、コミュニティ・スクールとしての活動

**Step3 協働実践** 授業改善、児童生徒による授業評価、児童生徒の意識調査、教職員のチェックシート、9年間の学習規律・生活作法、小・中合同作成の家庭学習の手引き・生活の手引き、カリキュラムの系統性を図る指導計画、各部会への取組

## 主な活動の紹介

小中合同でプロジェクトチームを編成し、全教職員がいずれかの部会に所属しています。

【学習指導部会】授業改善に関して中心的な取組を行い、授業交流や夏季休業中の学習会の支援交流を計画しました。学習のめあてを提示することで、「わかる授業」となるよう改善を図りました。

【生徒指導部会】「どこでもあいさつ」を4校の共通した生活作法とし、中学校の「あいさつ大使」が小学校を訪問して登校時にあいさつ運動をするなど、小・中学校であいさつの定着を図っています。また、生活の手引きを作成し、各校での指導を行っています。

【特活・道徳部会】4校で無言清掃に取り組み、定着が図られています。また、小学校の運動会に中学生が手伝いで参加するなど、運動会や文化祭・音楽祭の行事で児童生徒の交流を図っています。

【情報部会】各取組を分析し、部会代表会議で提示・改善の促進をしています。また、公民館と連携し、児童生徒がボランティア参加できる地域の祭りなどの行事の情報を収集して参加を呼びかけ、環境整備活動や防災、介護研修なども地域の方と一緒に行うことで、連携意識が高まりました。



〔岐山祭り〕中学生ボランティアが、地域とのふれあいを深めました。



〔遠石秋祭り〕小・中学生ボランティアが、各コーナーで活躍しました。



〔介護研修〕民生委員・児童委員と一っしょに体験研修を行いました。

## 成果と課題

岐陽中学校区では、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に、年2回の意識調査を実施し、児童生徒の変容を確かめながら、「魅力ある学校づくり」をめざして取り組んでいます。各学校の共通理解の下、交流や共同実践の指導計画、家庭学習や生活の手引きを作成するなど、9年間の一貫した教育を行うことで、子どもたちの環境変化に伴うストレスが軽減され、不登校の未然防止につながっています。

また、全教職員がいずれかの部会に参加する各プロジェクトチームの編成により、当事者意識が高まり、小中連携が一層活性化しました。公民館との連携で、地域行事に参加する中学生ボランティアも増えつつあります。

しかし、一方で地域住民への周知が不足しており、児童生徒の育ちを支援する活動に、より多くの住民が参加、協働できるような体制づくりが、これからの課題となっています。

## 今後の取組

不登校の未然防止や子どもの社会的な自立を促すためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって子どもを育むことが大切です。

今後は、県や市で行うコミュニティ・スクールやコーディネーターの研修などを活用し、統括コーディネーター等の育成を図り、地域との交流をより進めていく予定です。「魅力ある学校づくり調査研究事業」で培ったネットワークを基盤に、関係機関との連携、地域住民へ積極的に情報発信をすることで、「地域総ぐるみで子どもを育てる」気運を醸成していき、岐陽中学校区の地域協育ネットを更に推進していきたいと考えています。